



やっこ草

延岡市立熊野江小学校

No. 2

令和 5年 6月1日発行

さわやかな緑を感じる季節から6月に入り、梅雨の時期を迎えるとしています。先週、中学生と一緒にプール掃除をしました。6月中旬からは水泳の学習が始まります。海水浴ができる海もすぐ近くにありますので、泳ぎや呼吸法をしっかりと身に付けて海や川、プールでの水遊びを安全に楽しんでほしいと思います。



認める教育

ほめることももちろん大切ですが、まずは認めることを大事にしていきましょう。

① まず、子どもの存在を認める

「子ども扱いにして！」この言葉には、「軽く見ないでほしい」という気持ちが込められています。子どもの質問や訴えを茶化したりはぐらかしたりせず、「落ち着いて話してごらん。」と受け止め、理屈に合わない部分があっても「そんなふうに考えたんだね。」とまず、認める姿勢を大切にしましょう。経験の少ない子どもに対して、「このような方法もあるよ。」などと、大人として視野を広げる助言をしていけば、子どもはそこでまた成長していきます。

② あいさつとは認めること

「認める」の逆は「無視」。「あ、○○さんだ。」と気付いても無視と決めればあいさつなし。「やあ、あなたに会えてよかったです。」そんなあいさつは、人間関係づくりの第一歩です。「どちらへ？」「ええ、ちょっとそこまで。」「よく降りますねえ。」このようなほのぼのしたあいさつでも、相手の存在を認め、親しみを伝える大切な役割を果たしています。



③ 認めることが励ましに

どの子どもも、親の期待に応えたい、喜んでほしいという気持ちを強く持っています。しかし、現実は厳しく、むしろ不本意な結果になることが多いのではないかでしょうか。そんな場面で「もっと頑張らんと！」「ちゃんとせんか。」から

別の角度で、「残念だったね。あなたのことだから、きっとこれをバネに……。」「粘る姿が頼もしかったよ。」などと、意欲に結びつける言葉を考えてみましょう。その言葉に、子どもは自分のことを分かってくれるという嬉しさで次の一步を踏み出してくれることでしょう。失意のなかでも伸びようとする子どもの気持ちと力があることを、まず私達が認めることが大切です。

